京都文教中学高等学校・宗教礼拝

礼拝（らいはい）

令和6年9月2日
3号

浄土宗開宗八百五十年を迎えるにあたって

「ともいき社会」の実現のために

九月に入り、学園祭の取り組みが本格化してきました。学年やクラス、部活等での準備は進んでいるでしょうか。クラスや部の団結の中で、お互いが個を尊重して活動を進めてもらいたいと思います。一所懸命になればなるほど、それぞれの価値観の違いや説明不足のため、自分の思いが正しく伝わらず、もめ事が起こりやすくなるのもこの時期の特徴の一つです。そのことにも意識を向け、ともに頑張る仲間としての自覚の中で、素晴らしい成果をあげてください。

さて今年は浄土宗開宗八百五十年を迎えます。浄土宗の宗門校である本校も、十月末に行われるお祝いの行事に参加します。全国にあるすべての宗門校が参加し、自分の幸せだけではなく、すべてのものの命を大切にするとともに、みんなの幸せを願う「ともいき社会」の実現を目指すことを目標にした行事です。

これからを生きるみなさんへ

法然上人は幼くして志を立て、すべての人が平等に救われる道をあきらめることなく追い求められました。その結果、お念仏こそが仏様の御心にかなう実践であるとして選び取られ、心の眼を開かれると、浄土宗を開くことを決意し、一生を通じて念仏を実践されたのです。

みなさんも、法然上人にならって、志を立て、自分の道を突き進んでください。ただし、自己と他者がともに生かしあう「ともいき社会」を実現させるには、自分の幸せだけでなく他のみんなの幸せも思い、みんなと一緒に取り組める道を選び取ることも大事です。

みなさんも心の眼を開いて自分の命の根源を尋ね、仏様の大きな力に生かされていることに気づいてください。そして、その仏様につながる命の根を培い、大切に育んでください。

浄土宗

法然上人が浄土宗を開かれる前、仏教は天皇や一部の貴族だけのものでした。そのような厳しい環境の中で法然上人は「誰一人取りこぼすことなくすべてのものが平等に救われる道」を求められました。法然上人は「阿弥陀仏が私たちを救済するという誓いを成しとげられたので、私たちが極楽へ往生することは決定している」という考えをもとに教えを広められました。その救済は私たちの努力（自力）ではなく、阿弥陀仏の力（他力）に基づく他力本願であるからこそ誰もが幸せになることのできる教えなのです。

私たちも、迷うことなく自らの信じる道を歩まれた法然上人のように、自分の望む道に進めるように不断の努力をしていきましょう。その中で忘れてはいけないことがあります。それは他者との関係です。法然上人が自身の努力目標をすべての人の幸せに振り向けたように、自己と他者の間には切っても切れない関係があり、みんなの幸せを思うことが自分の幸せにつながっているという感覚です。また、自分の命は自力で獲得したものではなく**与えられた命**であり、様々な**ご縁によって生かされている命**であることに気づいていくことです。

学園祭の取り組みを通して、自分の頑張り（自利）が周囲の人の気持ちを動かす（利他）という考えを基本に「みんなの幸せを思うこと」が具体的な行動として現れることを願っています。

今日の感想文は、浄土宗からのメッセージに対して「将来、自分は**『ともいき社会』**の実現に向けてどのようなことができるか」を主題に、過去・現在・未来の自分の姿を思いまとめてみてください。